



つながろう

CO-OP アクション情報

2013年2月27日

第 26 号

帰村のきっかけをつくりたい

コープふくしま、帰村宣言「川内村」への共同購入展開



川内小学校の教職員に注文の品をお届けする横山さん。

福島県双葉郡川内村は、東京電力福島第一原発事故で、警戒区域と緊急時避難準備区域に指定されていましたが、除染によって生活が可能と村が判断し、2012年1月30日に「帰村宣言」を出しました。コープふくしまでは、10月より川内村で共同購入(宅配)を展開。現在68人が利用しています。



横山真太さん(左)と飯田ユキエさん。

「帰村宣言」が出された川内村では、住民約3,000人のうち約4割が村で生活を再開しています。

帰村のネックとなっているのは、除染が進展しているとはいえ放射性物質汚染に対する抵抗感があるということ

と、買い物施設などの生活環境が整っていないということです。

コープふくしまでは、震災前は川内村での共同購入(宅配)の配達が行なっていませんでしたが、こうした状況を聞き、生協として役立てるか検討を開始。商工会など地元の商店主の方々に問題がないかを確認、信頼関係を結んだ上で共同購入を開始しました。現在では、40カ所に配達を行っており、68人が利用しています。

現在、川内村を担当するのは横山真太さん1人。「10月からずっと川内村への配達を担当していますが、徐々

に配達先が増えてきました。そろそろ段取りよく回らないと1日で回るのは難しくなってきました」

利用者の一人、飯田ユキエさんは、お連れ合いと息子家族の2世帯で仮設住宅で暮らしています。「主人も息子もこの近くで働くようになって戻ってきました。お弁当のおかずにも生協で買った材料を使っていますよ」。いわき市や会津若松市にも息子たちが暮らしており、仮設住宅とはいえ故郷川内村に戻れたことで、お正月はみんな一緒に過ごすことができた笑顔で話してくれました。